

<p style="text-align: center;">卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)</p>	<p>心理学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学科が定める124単位以上を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 客観的な判断や思考を備えた科学的な態度を持ちつつ、駒澤大学の建学の理念である仏教の教えと禅の精神を深く理解し実践する主体性を備えている</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間を複眼的、重層的に理解するための社会、文化、自然に関する幅広い知識を習得している ・多様な文化や価値観を理解し、尊重できるような柔軟な視点を持っている <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間や人間社会に関する多様な情報を実証的な方法で収集し分析することができる ・収集した情報から問題を発見し、かつ問題を解決する適切な手段を考えることができる ・問題やその解決法について根拠に基づいた説明ができる <p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切に自己を主張し、かつ他者の話を公平に聴くことができる ・論理的かつ簡潔に話したり書いたり、発表することができる ・他者と協調、共同して生産的な活動に従事することができる ・自ら計画し、行動し、評価し、改善ができる <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎領域ならびに応用領域における心理学の知識を体系的に理解していること ・実証的な方法でデータを収集し分析するための情報処理力と数理能力を備えていること ・得られた情報や知見を論理的かつ多面的に整理し、社会に発信できること
<p style="text-align: center;">教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)</p>	<p>心理学科は、学位授与の方針を達成するために、教育課程を大きく専門教育、基礎教育、教養教育の区分に分け、それらを体系的に学習できるように編成する。これらの科目は、直接的あるいは相互補完的に科学的な課題探究能力および実践的な課題解決能力の向上を促すことを目的とし、各科目は講義形式ならびに少人数の演習・実習形式のクラス編成のもとに双方向的な授業を行う。</p> <p>1. 教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎教育として、コミュニケーション・スキル及び言語操作能力を開発するために、「キャリア教育入門」「外国語科目」「実験実習科目」「演習科目」が配置されている。また、情報リテラシーの習熟のため、1年次必修科目として「コンピュータ実習」、2年次以降も選択科目として「情報処理Ⅰ・Ⅱ」を配置した。さらに、数理データ操作技能の上達のために、1年次必修の「心理統計学」、その他の「実験実習科目」「卒業論文」を必修科目として配置した。 2) 専門教育として、心理学における基盤的知識を体系的に学習するために、1年次に「心理学概論」、2年次「心理学基礎実験」、「心理学研究法」、3年次に「心理学実験演習」を配置した。さらに1年次に学んだ「仏教と人間」の発展科目として「禅心理学」を3年次の必修科目として配置した。さらに、情報や知識を論理的かつ多面的に整理するとともに、それを呈示する能力を磨くため、3年次選択科目として「心理学特殊演習」、4年次必修の「演習」などの演習科目を体系的に配置し、4年次必修の「卒業論文」の作成でその涵養をはかっている。 3) 教養教育として、社会、文化、自然に関する知識に基づき、人間社会への認識を拡大させるために、宗教教育科目、全学共通科目、保健体育科目が配置されている。 <p>2. 教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高校と大学、及び大学の基礎教育と専門教育を体系的に有機的に関連づけるための導入教育を実施している。例えば、1年次全員が履修する「心理学入門」は、専任教員全員が分担して担当している。これにより、大学での学修のスキルを学ぶとともに、各教員の専門領域の研究を傾聴することで、心理学の色々な領域への関心が高まるとともに自らの将来の学修計画が立てやすくなる。 2) 実験や実習科目に関しては、殆どがアクティブ・ラーニング形式であり、学習後の学生への手だてもレポート課題提出とその添削・返却と個人レベルでの教育を実施している。 3) 自立した人間として常に社会貢献をするという意識をもたせるために、1年次よりキャリア意識を開発するための1年次全員履修の「キャリア教育入門」を実施している。 <p>3. 評価</p> <p>心理学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、以下の表に示すレベルと視点、及び心理学科の教育課程レベルと科目レベルから学修成果の評価・測定を行う。</p>
<p style="text-align: center;">入学者受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー：AP)</p>	<p>心理学科では、幅広い知的好奇心を持ち、目的意識をもって積極的に学びに取り組み、ルールや規範を尊重する社会性を備えた学生を求めている。</p> <p>1. 心理学科の求める学生像</p> <p>(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、できれば初歩的な数学や理科の授業を受けていることが望ましい。〔知識、理解、技能〕</p> <p>(AP2) 入学後は、建学の理念である仏教の教えと禅の精神を理解し、心理学の種々の領域への関心を高めるとともに、科学的なものの見方や考え方をすることができる。〔意欲、関心、態度〕</p> <p>(AP3) 実験や調査によって情報収集したデータを読解し、考察する、そして結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕</p> <p>(AP4) 主体的に自ら考え、行動するだけでなく、他者の意見も採り入れ、協働する姿勢をもつ。〔主体性、多様性、協働性〕</p>

